

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|--------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった。 |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 良好な結果であった。 |
| ③我が国の言語文化に関する事項 | 良好な結果であった。 |
| ④話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった。 |
| ③書くこと | 概ね良好な結果であった。 |
| ④読むこと | 良好な結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|------|--------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ②短答式 | 良好な結果であった。 |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった。 |

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

最も正答率の高かった設問は1ー「話すこと・聞くこと」、2ー「言葉の特徴や使い方に関する事項」を見る問題である。

最も無解答率の低かった設問は選択式の問題である。

分析

- 1 傾向 全体の正答率、領域別で見ると概ね良好な結果であった。
- 2 成果 無解答だった生徒がいない問題が多数見られ、粘り強く取り組む姿が見られる。
- 3 課題 書くことの領域では、無解答率が高くなっており、自分の考えを書く力をつける必要がある。読むことの領域では、古典分野の読み取りが現代文と比べて低く出ていることから、古典の読み取りの力をつける必要がある。
- 4 授業での重点的な取組み 目的に沿って自分の考えをまとめたり、根拠を明確にして自分の考えを書く時間を増やし、書くことへの苦手を減らしていくことが必要になると考えられる。古典の学習では、意味を読み取る時間を作り、情景や場面を想像しながら読む時間を作っていくことが必要だと考えられる。

○●数学●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|--------------|
| ① 数と式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ② 図形 | 概ね良好な結果であった。 |
| ③ 関数 | 良好な結果であった。 |
| ④ データの活用 | 概ね良好な結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|-------|--------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった。 |

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・全国と比較し、もっとも正答率の差が高かった設問は与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題である。
- ・もっとも正答率の低かった問題は空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題である。
- ・記述式の問題ではすべての設問で、無解答率が全国平均を下回っている。

分析

- 1 傾向 全体の正答率、領域別で見ると概ね良好な結果であった。
- 2 成果 (無解答率 0%) が多くの設問で見られ、記述式の問題でもすべての設問で無解答率が全国平均を下回るなど、解答を諦めず、最後までやり抜こうとする姿勢が見られる。
- 3 課題 正答率が全国平均を下回っている設問の多くが、知識・技能を問う問題であり、基礎的な学力が定着していないことが考えられる。
- 4 授業での重点的な取組み 学び合いの時間を充実させ、生徒が理解したことをアウトプットする機会を増やすことで基礎的な学習内容を定着させていく。

○●英語●○

(領域ごと)

- ①聞くこと 概ね良好な結果であった
- ②読むこと 良好な結果であった。
- ③書くこと 概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった。
- ②短答式 概ね良好な結果であった。
- ③記述式 概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・全国と比較し、もっとも正答率の高かった設問は社会的な話題について、短い文章の要点をとらえることができるかどうかをみる問題である。
- ・もっとも正答率の低かった問題は情報を正確にききとることができるかどうかをみる問題である。
- ・選択式の問題ではすべての設問で、無解答率が0%であった。

分析

- 1 傾向 全体の正答率、領域別で見ると、概ね良好な結果であった。
- 2 成果 無解答率 0%が多く設問で見られ、粘り強く取り組もうとする姿勢がみられる。
- 3 課題 記述式や書くことの項目では、正答率が全国平均より低く、無解答率が経年比較で増えており、確実な語彙力、表現力をつけていく必要がある。
- 4 授業での重点的な取組み 書くこと、話すことに対する苦手意識を払しょくできるよう、ペア学習や班学習などの協働学習を取り入れながら、授業に積極的に参加できるような取組みを継続していく。「話すこと」調査については、全国平均と比較して概ね良好な結果であった。引き続き、英語を使用して互いの気持ちや考えを伝えあう活動等を進めていく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は、ここ数年間ほぼ横ばいで全国平均並みだったが今年度は国語は5ポイント、数学は4ポイント上がり、全国平均よりもやや高かった。
- ・無解答率は昨年同様低く、粘り強くとりくむことができている。
- ・引き続き失敗を恐れずにとりくむことができる環境づくりをしていく。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語、数学ともに高位層は全国平均より上回った。特に国語は大きく上回っている。
- ・全体的に低位層は全国平均並みで、エンパワー層は全国平均より下回っている。
- ・高位層、中位層、低位層を更に引き上げ、エンパワー層をより減らすために、学び合いをとおして学びを深める取組みが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

①学習環境の整備

- ・東雲スタンダード(東小学校、白川小学校とともに校区での取組み)の充実
 - ①チャイム着席をしよう
 - ②授業開始と終了のあいさつをしっかりとしよう
 - ③次の授業が終わったら次の時間の準備をしよう
 - ④机の横や通路にかばんを置かないようにしよう(荷物用ロッカーの設置)
- ・学習に集中できるように、教室の前黒板、掲示板の掲示物を最小限化
- ・各教室に1日の流れ、教科の連絡が分かるようホワイトボードを設置
- ・各教室に教科の提出物と期限、補講の日程等を連絡をするためのホワイトボードを設置
- ・掲示物や配付物でのUDフォントの使用

②授業・学校づくり

- ・授業の目標と流れを提示
- ・振り返りの時間の確保
- ・ICTの活用
 - *教員: パワーポイントによる板書時間の削減、視覚的支援、Teams等での課題作成
全校集会のTeams開催、遅刻欠席連絡、委員会・係の連絡等にTeamsを活用し業務の効率化と全教職員で生徒や校内の動きの状況把握
 - *生徒: Teamsで課題提出、資料(課題の解答や音源等)視聴、インターネット検索をとおして必要な情報の選択や情報モラルの学習 → 自己調整能力の育成

③非認知能力育成の取組み

- ・教職員対象の研修の実施
- ・しのっこカステッカーとその行動目標を授業、行事ごとに提示、または子ども自身で設定したうえでの、振り返り
- ・茨木っ子いま未来手帳の活用(MT、ST時に記入)
- ・しのっこタイムの設定(朝一日の行動目標を決め、ST時に振り返る取組み。)

④その他

- 放課後学習会の実施、テスト前学習計画表を子ども自身が作成、定期テストごとの基礎問題演習
- ・学び合いを充実させるための学級づくり(班長会議・班ノート・クラスミーティング)